

月刊 やちまなこ

2025. 5.15 発行

No.330

5月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



塘路小中学校と桜〔昭和19年（1944年）開校〕

2025年3月末をもって、81年間続いた塘路小中学校の歴史が、休校（統廃合）という形で一旦幕を閉じた。

桜が咲くといつも訪ねていた場所だけに、少し寂しい気持ちになりますが、これも時代の流れというものでしょうか。

学校を訪うと校門のミネザクラが美しい花を咲き誇らせていた。長い歴史の中、多くの児童たちを優しく迎え入れ、また新しい門出を見送った桜たちは、児童の居なくなった校舎を背に、遅咲きの花を静かに風に揺らしていた。



塘路フィールドノート【4/15～5/14】

【野鳥】

冬鳥の姿が少なくなり、今年も夏鳥の季節がやってきました。湖畔の森や湿原帯で、ウグイスやムシクイなどの夏鳥たちが春を謳歌しています。オオジシギの降下音も、この時期ならでは。



アオサギ (塘路原野)

アオサギコロニーは放卵中と思われる。繁殖期の成鳥は何とも言えない迫力を感じる。サギ科



クマゲラ (コッタロ湿原)

繁殖期に入り番いで鳴き交わす姿を確認。今年は塘路周辺の山々では多い印象。キツツキ科



タンチョウ (釧路湿原)

営巣期に入りヨシを集めた巣にしゃがむ個体。雌雄交代で巣を守り、合間に食事を摂る。ツル科



オオタカ (釧路湿原)

農家の堆肥山にて物珍しそうにタンチョウを見つめていた幼鳥。鶴を初めて見たのでしょうか、驚き顔でした。タカ科



オオジシギ (サルルントー)

今季はディスプレイフライトを多く見掛ける。急降下する轟音から「カミナリシギ」とも呼ばれる。シギ科



フクロウ (塘路原野)

北海道の本種は亜種エゾフクロウ。板を撮っていたら、花の奥に静かにとまっていた。「森の賢人」。フクロウ科

【植物】 早春の草花の開花は例年通りという感じであったが、湖畔の桜の開花はゴールデンウィークの始まりに間に合わず、明けてから漸く咲き始めた。オオバナノエンレイソウはまだ蕾のまま。



エゾヤマザクラ【蝦夷山桜】

北海道を代表する桜。今年は昨年よりも遅い開花であった。花言葉は「優れた美人」バラ科



エゾエンゴサク【蝦夷延胡索】

福寿草よりも少し遅れて咲く涼し気な花。おひたし等にして食べる人もいる。ケシ科



ヒメイチゲ【姫一華】

これも春を告げる白い花。暗い林床に群生する。花言葉は「あなたを守りたい」キンポウゲ科



ミズバショウ【水芭蕉】

湿原上流の湧き水環境に咲く春の花。毎年みると心を新たにす。花言葉は「美しい思い出」。サトイモ科



フデリンドウ【筆竜胆】

晴れた日中に咲く小さな竜胆。センターの芝地に可憐に咲いている。花言葉は「高貴」リンドウ科



ギョウジャニンニク【行者大蒜】

春の山菜として有名だが、よく似た毒草もあり誤食に注意が必要。花言葉は「生命力」。ヒガンバナ科

【昆虫】 今春はセンターの所在する標茶町と所縁のある春の蛾を探してみた。今まで探したことはなかったが、なかなか趣きのある昆虫でした。塘路湖畔では昨年一頭のみ見掛けた特定外来生物セイヨウオオマルハナバチが、今年は多く確認されてしまった。



シベチャキリガ(釧路湿原)

春に発生する冬夜蛾(キリガ)。標茶の地名を冠する昆虫の1つ。幼虫は湿原のホザキシモツケの葉を食べる。ヤガ科



イイジマキリガ(釧路湿原)

標茶町の昆虫研究家である、飯島一雄氏に献名された春キリガの1つ。前種よりやや山地を好む。ヤガ科



セイヨウオオマルハナバチ(塘路湖畔)

塘路湖畔で初捕獲された女王バチ。農作物の受粉のため移入され今では厄介者扱いの特定外来生物。マルハナバチ科

◎動物の頭骨からみえてくるもの

4月26日(土)～5月5日(月)までの期間、当館レクチャールームでは「哺乳動物の頭骨を観察しよう」(標茶町博物館との共催行事)を企画展示しました。

身近に暮らすキタキツネやエゾタヌキから、普段なかなか目にする機会のない、トドやイルカの仲間の頭骨を、ハンズフリーで展示しました。

来館者はそれぞれを手にして、その重さや肌ざわりなどを体験し、動物たちの生活史を垣間見た。



【両生類・哺乳類】 厳しい冬が終わり両生類たちも繁殖の季節ですが、あっという間に終わってしまう。



キタサンショウウオ卵塊 (釧路湿原)
産み落とされたばかりの卵塊は透明度が高く、光の屈折で青く輝いて美しい。サンショウウオ科



エゾアカガエル (塘路湖畔)
合唱に春を感じるカエルの繁殖。夜には大胆となり舗装道を横切る個体が増える。アカガエル科



エゾシカ (標茶町博物館前)
芝地で黙々と草を食べていた。先月落角したばかりですが、早くも袋角が伸びてきている。シカ科

6月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

初夏の湿原 展望台散策

[日 時] 6月21日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] サルルン展望台周辺 (集合はサルボ展望台駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

初夏の花を見に行こう

[日 時] 6月8日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

【訂正とお詫び】

4月号(329号)にて、ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)の写真がツグミの写真となっておりました。釧路湿原連絡協議会 HP の本号は、既に正しい写真のものと差し変わっております。

<https://www.kushiro-shitsugen-np.jp/wp-content/uploads/2025/04/82e27b24b02b10abc2c5b2c422ee67a6-1.pdf>
この場に訂正して、お詫び申し上げます。

◆日出・日入時間 4/15(4:39,18:04). 4/30(4:15,18:22).5/14(3:58,18:38)

～指導員のひとり言～

■昨年の桜の開花も遅かった印象でしたが、今年はもっと遅くてゴールデンウィーク期間中に間に合いませんでした。釧路湿原の短い春は、編集を終えた今が盛りですね。

昨年度辺りから「Instagramを見て立ち寄りました」という方が増えており、大変に有り難いのですが、その季節の進みが早過ぎて、訪われた時には記事の見頃が終わってしまっていることも少なくありません。春がもう少し長く続いてくれればなあと思う、今日この頃です。

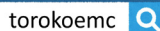
釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料